

台湾におけるSSCAPの プロモーション活動について

推進・マーケティングチーム 上級委員 謝宜倫
2023年6月27日

台湾側のSSCAP参加の背景と動機

1

日本側の事前準備作業の完了

JFSMはTQFAと同じ理念および性質を有するパートナーであり、すでに信頼関係が構築されている。SSCAPは、日本側における事前準備作業が完了した後、最終段階において台湾側への参加呼びかけがあった。

2

食品産業の理念に適合

規模に関わらず全ての食品メーカーが追求し遵守するに相応しいCSR（企業の社会的責任）指標である。

3

第三者としての立場からサービスを提供

当協会は食品メーカーと消費者の間に立ち、食品産業の健全な発展と消費者の権益の確保のために尽力したいと考えている。

SSCAPは食品の安全性に次いで重要な、協会が客観的立場から継続的にサービスを提供し社会に貢献することのできる機械である。



相互承認の合意に基づき、台日パートナーシップをさらに強化発展

第10回第二次総会においてJFSMと
「台日持続可能食品サプライチェーン協力MOA」を締結(2023.11.30)



SSCAP提携の初期段階において 得られる成果



1

自己評価シート

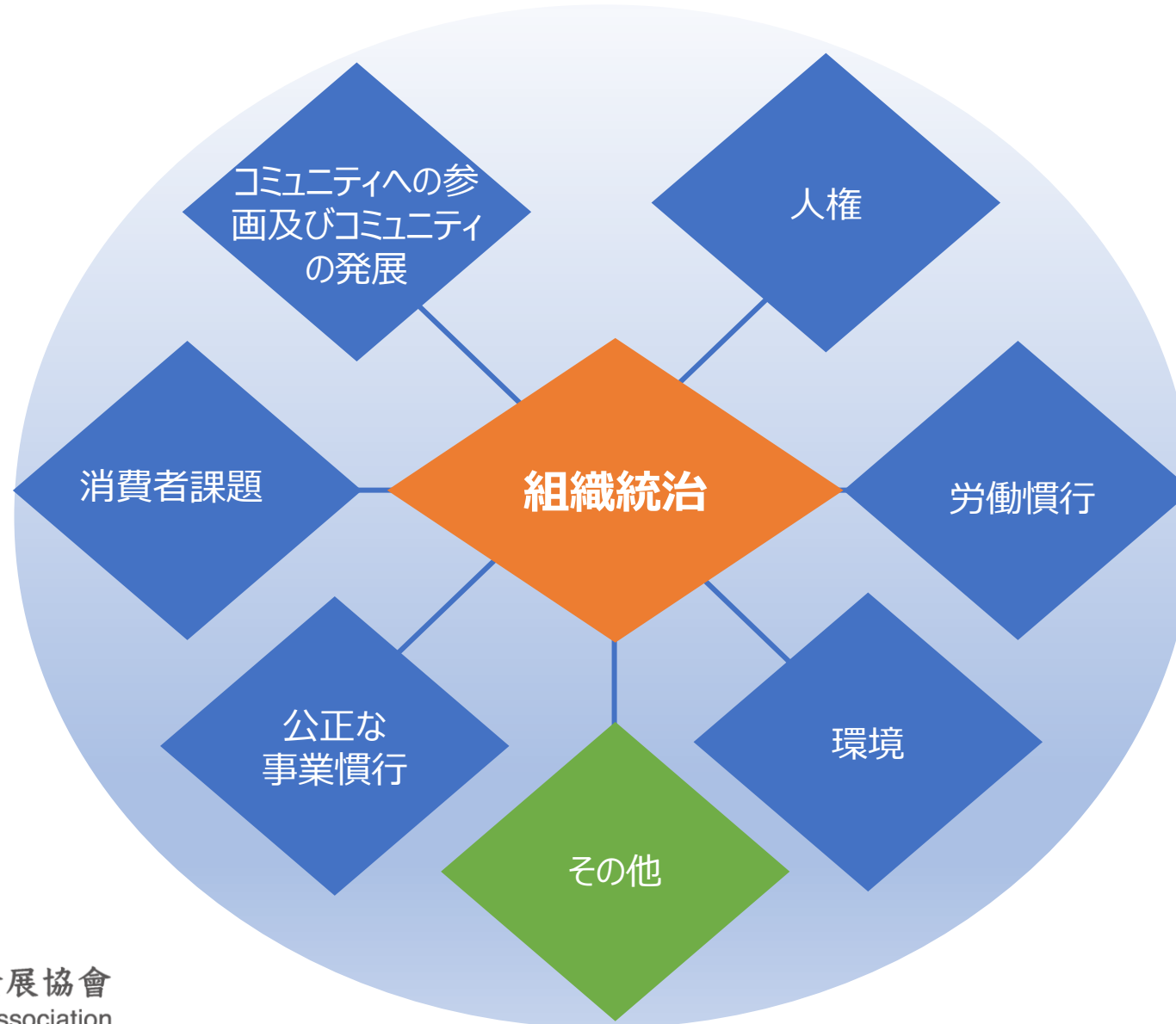
適合性判定ルール + 国際基準

2

SSCAPクラウド業務システム

デジタル化の導入 + シンプルな操作

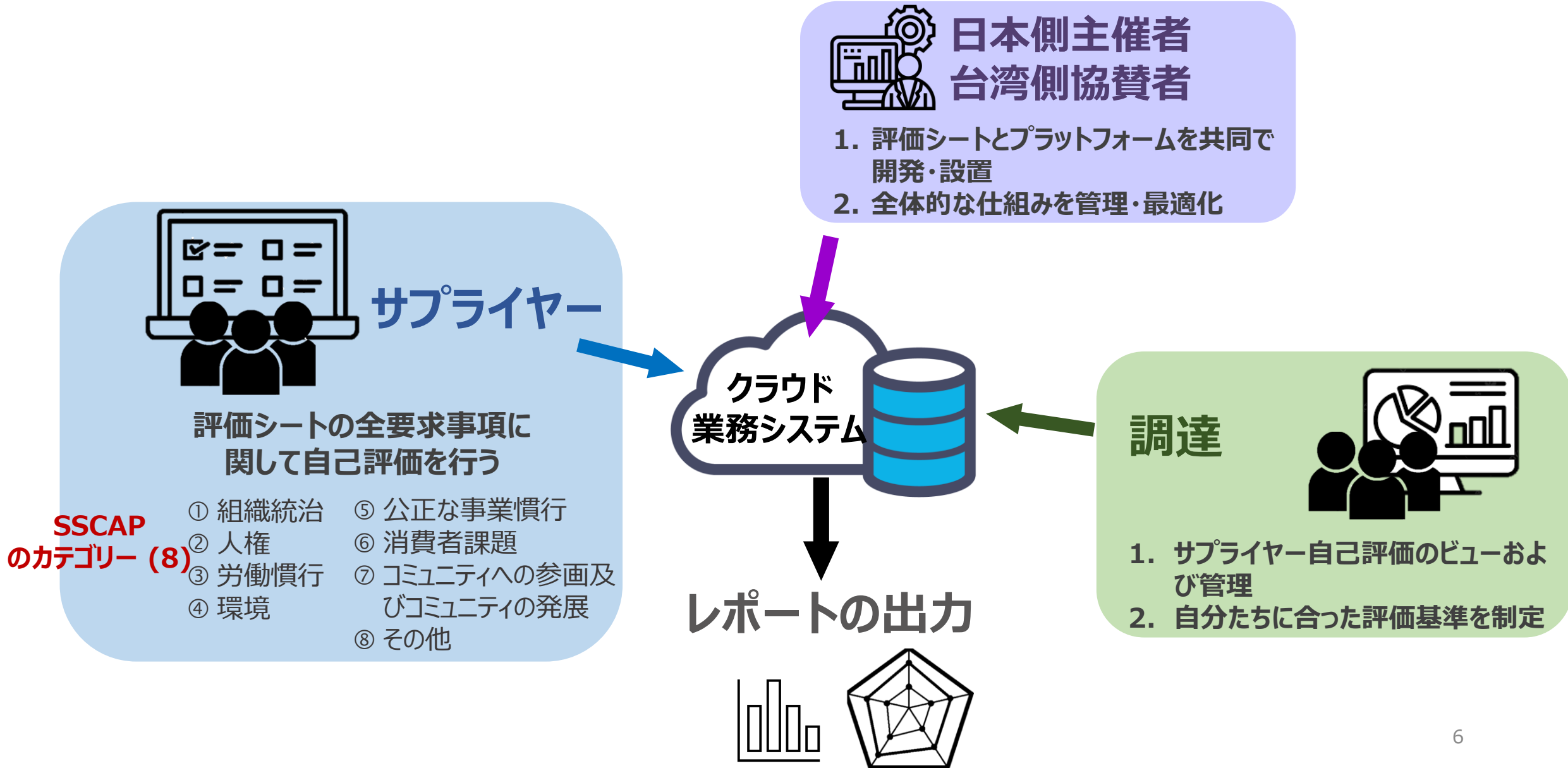
SSCAP自己評価シートの8つのコアカテゴリー



ISO26000/ISO26030
7つの中核主題

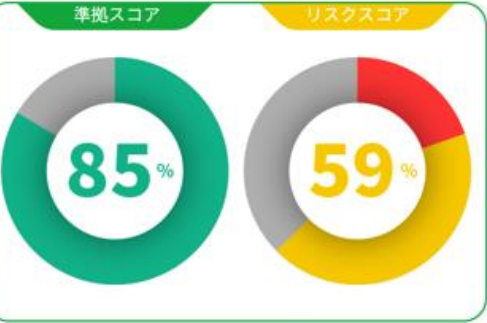
研究・解析結果に基づき他の
主題を追加

SSCAPクラウド業務システム



SSCAPクラウド業務システム

総合スコア

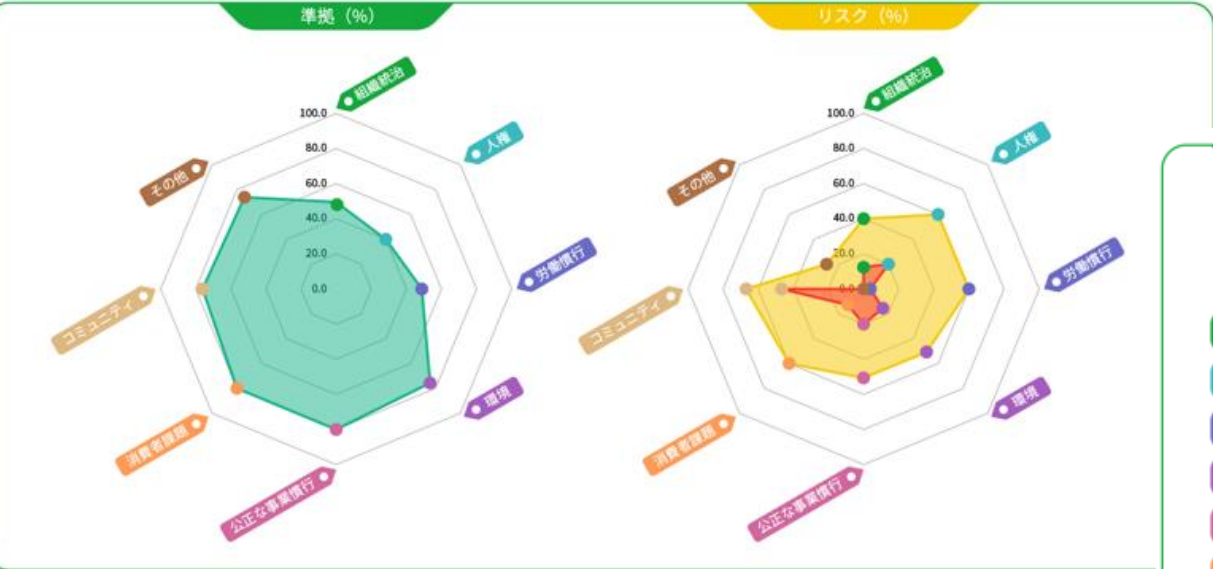


総合スコア経年比較



自己評価シートのレポート出力
可視化されたレポートを通じて自身の
サステナビリティ達成度を知り、
戦略策定や改善案の参考とすること
ができる。

領域別スコア



度数分布

	コンプライアンス						サステナビリティ			総計 (N/A は除く)
	最優先			優先			優先			
	YES	NO	N/A	YES	NO	N/A	YES	NO	N/A	
組織統治	6(19.3%)	2(6.4%)	2	2(6.4%)	1(3.2%)	3	6(19.3%)	14(45.1%)	1	31 (100%)
組織統治	15(75.0%)	0(0.0%)	3	3(15.0%)	0(0.0%)	1	1(5.0%)	1(5.0%)	1	20 (100%)
組織統治	25(52.0%)	5(10.4%)	1	1(2.0%)	2(2.0%)	3	5(10.4%)	10(20.8%)	2	48 (100%)
組織統治	5(12.2%)	6(14.6%)	0	3(7.3%)	2(4.8%)	3	12(29.2%)	13(31.7%)	5	41 (100%)
組織統治	12(50.0%)	1(4.1%)	1	1(4.1%)	1(4.1%)	3	6(25.0%)	3(12.5%)	4	24 (100%)
組織統治	8(28.5%)	1(3.5%)	2	5(17.8%)	2(7.1%)	1	8(28.5%)	4(14.2%)	0	28 (100%)
組織統治	-	-	-	-	-	-	5(41.6%)	7(58.3%)	1	12 (100%)
組織統治	3(27.2%)	0(0.0%)	-	1(9.0%)	0(0.0%)	1	2(18.1%)	5(45.4%)	0	11 (100%)
総計	74	15	9	16	8	15	45	57	14	215

SSCAPサービス関連措置の考案・実施



1

SSC適合性評価

SSCの条文の規定に即したSSC評価シートを作成するとともに、第三者がSSC適合性評価弁法に基づき企業のESG指標達成度の調査・証明および再審査を行う。

2

SSC研修カリキュラム

食品メーカーや審査員向けのSSC研修カリキュラムを台日双方が共同で開発・実施する。

SSCAPサービス関連措置の実施時期

2024

2025



① 台日が共同で評価シートを作成

適合性判定ルール＋国際基準

② クラウド操作プラットフォームを設置

9月 テスト版を公開

★ 10月 正式リリース

(運営形態 →

ユーザーがサブスクリプション料金を支払う)

① SSC適合性評価第三者証明を制定

評価シートに基づきSSC適合性評価証明を制定し、適合性評価サービスを提供する外部の第三者機関に提供する。

② SSC研修カリキュラムを開発

TQF協会の研修センターの資源を活用してSSC研修カリキュラムを開発し、外部に研修サービスを提供する。

将来の展望



1

台日で同時にプロモーションを行い、 産業のグレードアップを推進

自己評価結果によって販売チャネルの認可を得ることが可能となり、サプライチェーンにおける生産販売提携のチャンスを促進することができる。

2

プロモーション活動をさらに強化し、 産業界における賛同を集める

企業が実施しているサステナブルな取り組みを、意義上の価値要素から実質的な価値要素へと転化させる。

3

初期は食品産業のみを対象とし、将来は応用を拡大

SSCAPの食品産業における応用が成熟した後、各方面の資源を融合させて他の産業分野へも応用の範囲を拡大していく。

ご指導ご鞭撻のほど
よろしくお願いいたします

台灣優良食品發展協會

02-23931318

service0@tqf.org.tw

